



椿島・竹島



荒島

## 町の活性化と産業振興の大きな力となる観光業として。

阿部会長 観光は、志津川町の大きな基幹産業のひとつとして位置付けられます。海と山が両立してあること。そして海でも山でも体験ができることは、観光資源としても大きな魅力です。



阿部隆二郎さん(観光協会会長・ホテル観光専務)

喜んでもらえる志津川の魅力をバネに、さらに知名度アップへ。

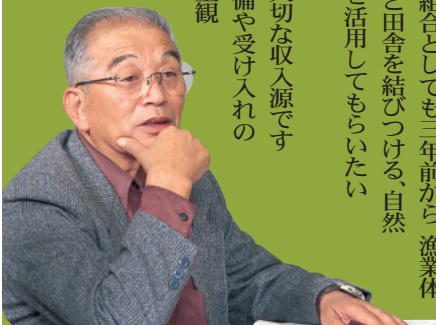
及川副会長 志津川は、山海のバランスが良い、自然の調和のとれた地域です。そして「食」のいいものがあるところと捉えてくれているようです。観光は、独立した産業として位置付けられてよいと思います。産業振興の重要なキープポイントであり、外貨を獲得する意味では最高の方策です。菅原(長)理事 外貨を得ることはもちろん、知ってもらい、人を呼び込むなど、志津川をPRすることで、泊まる、遊ぶなどいろいろな形で、町の産業への波及効果も生まれてきます。また、人との出会いを生み、情報も得られます。



及川善祐さん(観光協会副会長・株及善商店社長)

山本理事 観光によって町が活性化される。皆さんに知ってもらうことが、まず重要ですね。松野理事 志津川は、観光で生きている町です。観光には、呼び込む観光と出て行ってPRする観光とがあると思います。私は、月に二十〜二十五日は仙台に出かけていき、野菜や漬物、獲ったばかりの海産物などを販売しながら、志津川をアピールしています。

菅原(長)理事 校舎の宿さんさん館でも多くの体験メニューを取り入れています。私たちが民宿組合としても三年前から、漁業体験などを受け入れています。都市と田舎を結びつける、自然を生かした体験の宿として民宿を活用してもらいたいと考えています。



菅原塚夫さん(観光協会副会長・志津川観光タクシー(有)社長)

菅原(塚)副会長 交通の便が一番の問題点ですね。東北新幹線や三陸自動車道はあるものの、そこから志津川までが遠い。なににより、三陸道の早期開通が必要ですね。



松野三枝子さん(観光協会理事・JA南三陸女性部長)

松野理事 志津川は遠いというイメージを持っている人は意外と多いようです。志津川タコがまだ知られていないのは事実です。が、志津川の味をどうぞと言っただけで足を止めてもらえる。行ってみたいともよく言われます。志津川と言っただけで、興味は持ってもらえるのも事実ですよ。

及川副会長 年に二〜三回、行事やイベントの案内のため、県内や岩手県南をキャラバンを組んで廻っています。

# 今を見つめ、未来を見つめる「観光の町として」

南三陸金華山国定公園の中央に位置し、美しい自然とその恵みが豊かな私たちの町。志津川町の観光客の入り込み数は、平成二年度から継続して年間六十万人を突破し、南三陸地域の観光の拠点として位置付けられています。観光資源としての志津川の魅力や可能性、観光の町としての課題や展望などを、観光協会の方たちに語っていただきました。



菅原長弥さん(観光協会理事・民宿組合長)

第一回おさかな通り大漁市を開催しましたが、開催すれば数千人から数万人の人たちが来てくれる。志津川には、実施すれば効果があり、喜んでもらえる潜在能力は確かにあるんです。しかし、全国的に見ると、やはり知名度はまだ低い。志津川よりも南三陸といえはオンラインワンで、位置的にも分かります。そういう意味では、南三陸を売り出して、そのキープポイントが志津川という売り方もひとつだと思えます。

菅原(長)理事 イベント開催時などは、町内での密な横の情報連携により、さまざまな個人や団体が支援したり、参加、活用したり、もつと多岐に広がりを持てると思えます。

## 自信と誇りを持って、志津川を再発見し、その良さを発信しよう

阿部理事 人口が減少していけば、町として発展する可能性も少なくなりますが、働く場所や遊べる場所を提供していきながら、魅力ある町を目指していかなければいけないと思いますね。

松野理事 観光客がいなければ、町としても成長しません。年をとっても、志津川に住みたいと思つちづくりを進めなければ、観光客にも受け入れられない。自分の大好きな志津川をもつとと知ってもらいたいですね。

山本理事 新鮮な魚介類がすぐ食べられる場所できれば海の見えるところに道の駅があればいいと思います。新鮮なもの獲れたての味は全然違う。都立にはない、志津川の良さをもつとPRしていきたいですね。

及川副会長 交通アクセスは、重要なポイントです。仙台以南特に東京関東方面にも目を向けながらも、国道398号や国道45号



入谷地区



山本貴和さん(観光協会理事・山本セメント(有))

一番の源でもある、この美しい自然環境をいかに守り続けていくかも、これからの大きな課題だと思います。年に何回、何十回と足を運んでくれる方たち、志津川の良さを知ってくれている方たち、そういうリピーターを一人でも増やしたい。そのためにもどうするか、どうPRしていくのか、工夫しなければなりませんね。



阿部真司さん(観光協会理事・まるしん釣具店)

及川副会長 何度行っても飽きない町というのは、住んでいる私たちが楽しくやっていかなければ…。あの人たち、何だか楽しそうだなと思つていたかかないとダメですね。私たち自身が、自信と誇りを持って生きることです。そうでなければ、子どもたちも町に残らない。どう取り組むかを、みんなで一生懸命に考えていければいい。目先のことだけではなく、この先ずっと喜ばれるような志津川のあり方を考えていきたいと思います。何より、私たちが温かい人間として、おもてなしができること。そして、したたかに志津川ブランドをPRしていくことが大切なのではないでしょうか。



松笠屋敷

